



■ 名 前 (ふりがな)	片山 直美
■ グループ名	
■ 学校名	南淡町立賀集小学校
■ 学 年	6 年生
■ 年 齢	1 2 歳
■ お手伝いしていただいた方の名前	片山明子 (母)

■ レポートした場所	兵庫県三原郡南淡町沼島
■ レポートの題名	沼島の港 昔と今
■ 内 容	<p>波打ち際まで家があり漁業が盛んであるが、昔から台風などで大きな被害を受けることがたびたびあった。そのため港内を埋め立てたり防波堤を造るなどして、今では漁船を台風のたびに陸に引き揚げる必要がなくなり、船も大きくなり安全に業業がとれる浜もサザエやアワビの棲む磯も身近ではなくなってしまった。去年、港から外れたところに新しく海水浴場が造られたが、何処にでもある人工の砂浜のようで少し残念だと母たちが言っていた。壊してしまった自然はもう戻らない。島に住む人たちの生活が一番大切であるが、沼島だけの良さや特徴のある自然を大切にせず事もできればいいと思う。</p>

昭和初期



自然がいっぱいで、泳いだり、うにやサザエをとって遊んでいた。

現在



埋め立てられ、倉庫や道が出来た。

明治時代

家の前がすぐ波うちぎわだった。

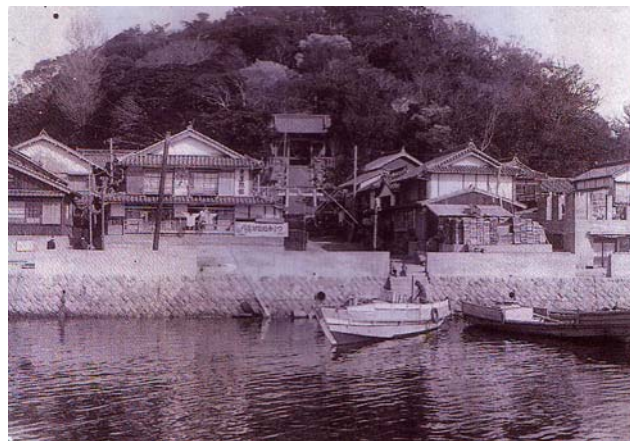


大正時代



波うちぎわを埋め立てて石をつんで、少し人が通われるくらいの道ができた。

昭和中期



さらに埋め立てを広げ、防波堤をつくり、台風などによる災害が少なくなった。

現在



港の沖に大きな防波堤が出来たので以前の防波堤の高さまで道になり車が通れるほど広がっている。